

同一労働同一賃金、長時間労働是正、 最賃引上げ、氷河期支援などに尽力

◆田村憲久 厚生労働大臣に聞く



● たむら・のりひさ

昭和39年生まれ、三重県出身。昭和63年千葉大学法経学部卒業。平成8年衆議院議員初当選（当選8回）。厚生労働大臣、衆議院厚生労働委員会理事、裁判官訴追委員会委員長、自由民主党新型コロナウイルス関連肺炎対策本部本部長などを歴任。令和2年9月16日より現職。

6年ぶりに厚生労働大臣を拝命させていただき、総理からすぐに指示をいただきました。新型コロナウイルスのこと、これは全てに影響してきますので、感染拡大をある程度防げという話や治療薬などの話もありますが、当然のごとく働き方も変わってきます。そういうことも踏まえた上で、しっかりと対応してもらいたいというお話もいただきました。

それから、同一労働同一賃金の中小企業への適用が来年4月から始まるという話の中で、それに対する準備をしていくわけですし、長時間労働是正もスタートしましたので、これらがしっかりと世の中に理解をされるように、実行されるように、そして、多様な働き方に対してルールを整備等々も行っていかなければならない、というお話もいただいています。

最低賃金に関しては、今年はコロナで中々厳しい状況でしたが、やはり全国加

重平均1000円に向かって行っている最中です。もちろん、それだけでできる話ではなくて、中小零細企業においては、引き上げられるだけの環境整備を、中々厚生労働省だけでは難しい話ですから、中小企業庁等とも協力をしていかなければなりません。環境整備をしながら最低賃金をなるべく早く加重平均1000円に向かって引き上げていくことについて、しっかりと努力してもらいたいというお話もいただいています。また、就職氷河期世代の方々に対し、しっかりと働いてもらえるような環境をつくってもらいたいというお話もいただいています。

一つひとつ実行すべく努力をして、非常に幅が広く多種にわたる内容で大変ですが、厚生労働省が動かないことには、実現できていきませんので、しっかりと進めている最中です。「身が引き締まる思い」ですね。（令和2年10月14日収録）